

# 十小だより



令和7年度4月号 No. 627

令和7年4月7日発行

武蔵村山市立第十小学校

校長 今井 一馬

## 【教育目標】

- －くすの木のように優しくたくましく－
- ・やる気いっぱい（自分で考える子）
- ・笑顔いっぱい（自分も友達も大切にする子）
- ・力いっぱい（丈夫でたくましい子）

<http://www.city.musashimurayama.lg.jp/school/mmced10s>

## 子供たちのがんばりを 応援し続ける学校を目指して

校長 今井 一馬

新一年生・転入生に加え、めじろ・つばめ学級が開設し、児童数399名で令和7年度がスタートしました。今年度も、子供たちが元気に登校できるよう、職員一同尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

少しさかのぼりますが、3月24日には卒業証書授与式が挙行され、卒業生が堂々と中学校に巣立っていきました。新たな環境や学習などに戸惑うこともあると思いますが、「個別の時間」で培った自立の力は、それらを乗り越えていく力にもつながります。第十小学校の先輩として、新天地での活躍を期待しています。

翌25日には、離任式・修了式が行われました。卒業生が抜けた5つの学年が体育館に集まり、人数の少なさにさみしさを感じました。

離任式では、4人の離任・退職される先生方のお話を聞きました。それぞれの先生からは「こんな子供になってほしい」という願いが、子供たちに投げかけられました。その願いをしっかりと受け止め、新年度をスタートしていきたいと思えます。



【離任式の様子】

修了式では、あゆみに書かれていた子供たちのがんばりについて話しました。子供たちは、一年間で上達したり、できるようになったりしたことがたくさんあり、音読や計算、鉄棒・跳び箱など、いくつかの例を挙げて紹介しました。

子供たちの成長のすばらしさに、私も「何かできるようにになりたい」と思い、ある楽器にチャレンジしようと決断しました。そのきっかけは、3月5日に開催された、吹奏楽クラブの最終公演でした。



【吹奏楽クラブの最終公演の様子】

春から始めた子も、立派な演奏者となり、多くのギャラリーの拍手に包まれ、キラキラと輝いていました。その姿を見ていて、純粋に「格好いいなあ」と感じ、また「何か新しいことができるようになることは、その人を輝かせるんだ。」と思いました。

このような経緯で、音楽が苦手な私が楽器に挑戦することになりました。子供たちにも新年度に向けて、一つだけ宿題を出しました。それは「やってみたいこと、できるようになりたいことを見つけておいて。」ということです。今年度も、子供のがんばりを応援していく学校であり続けたいと思えます。